

産業建設常任委員会研修会

講師を招いて市内企業・団体とともに

地域内経済循環を学ぶ



産業建設常任委員会は1月30日、市コミュニティホールで「中小企業・小規模企業振興条例を活かした地域づくり」をテーマに、所管事務調査を行いました。

今回は、委員外議員のほか、商工会や銀行、まちなか会などにも参加を呼び掛け、昨年6月に制定した「中小企業・小規模企業振興条例」を広く知ってもらい、活用に向けた醸成を促す取り組みとして調査しました。

講師の京都橘大学学長・京都大学名誉教授の岡田知弘氏から「地域を豊かにするとは」、「という切り口で地域内再投資力と地域内経済循環の重要性について講義を受



講師の岡田知弘氏

けました。

その中で、岡田氏は古くから近江商人に言われる、「売り手よし、買い手よし、世間よしの「三方よし」の原則をもとに、他市の事例などを紹介。条例を制定することで、首長や行政実務担当が交代したとしても、自治体としての組織的な地域づくりの取り組みが、法的裏付けのもとに系統的展開ができる」と強調。条例をいかけた今後の展望も学ぶことができました。

また、条例をもとに中小企業の実態調査をし、具体的施策を展開していく事で効果を生み出していかなければならず、「単なる宣言条例に終わらせては意味がない」とも述べました。

最後に「足元の地域経済社会を元気にする主役は地域の中小・小規模企業。ただし、主体的に動いてこそ、真の意味での主役とな

る」と締めくくりました。今回の調査で、委員会として改めて、この条例をもとに主体性を持った政策提言していく必要性を感じました。



講師に質問する参加者

議会だより編集小委員会行政視察研修

議会だより編集小委員会は、議会だよりが市民と議会を結ぶツールとしてより良いものとするため、1月14日から15日まで先進自治体である埼玉県北葛飾郡杉戸町と、全国の議会だよりに携わっている(株)会議録センターを訪問し議会だよりの編集方針や基本的な編集技術などを研修しました。

杉戸町では議会だよりの表紙から驚かされました。まるでファッション誌を思わせるようなデザインとロゴがローマ字であるなど一般的なイメージとは大きくかけ離れるものでした。杉戸町議会の編集委員会は1期目、2期目の議員で構成しており、紙面を大きくリニューアルしたとのことでした。その理由は「『えっ、これなに?』とまず手に取ってもらいたいことを主にした」ということで、最近発行されたものはどれも表紙で引き付けるものになっていました。また、様々な人の手に取ってもらえるよ

うに市内の病院などにも置いていくということでした。

会議録センターは、本市議会でも議事録の作成業務を委託しているところですが、議会だよりの編集にもアドバイスや、コンテンツのようなものを開催するなどしており、今回は技術的な指導を受けてきました。会場となった会議室には全国の市町村議会が発行している議会広報が並べてあり、実際のレイアウトを勉強することができた研修となりました。この研修の成果を生かし、市民に何を伝えるかも考えながら議会だよりの発行を行っていきます。

斬新なデザインの杉戸町議会だより



絆まつり

名古屋市との友情の象徴

震災後から続く名古屋市と本市との交流を象徴した「絆まつり」が2月22日、一本松ホールで開かれました。これまでは名古屋市で行われてきたもので、今回初めて本市で開催され、ステージ発表やキッチンカーの出店に多くの人が賑わいました。両市は、平成24年に絆協定を締結し、中学生の相互訪問交流をスタートさせました。今イベントの実行委員会は中学生交流の参加者が中心となって組織されています。

会場では名古屋市の広沢一郎市長が佐々木拓市長へ、名古屋市で育てられた一本松の「孫」を手渡し、今後も絆を深めて行くことを確認し、太鼓演奏、歌や踊りが披露されました。

さらに、絆協定による交流のテーマソング「未来への翼」の新たな映像が発表され、実行委のメンバーやイベントの出演者らがステージに並び、美しい合唱を響かせました。

また、本市議会と交流があり、震災後「心に花をプロジェクト」として陸前高田市役所仮庁舎前をプラントの花々で彩る活動を続けてこられた名古屋市会カーデニングクラブの会長のふじた和秀議員はじめ11人の議員も会場に駆けつけ、イベントを盛り上げました。



「未来への翼」ミュージックビデオは、こちらから視聴できます。

